

令和6年度

■ 総務文教常任委員会

行政視察報告書 ■

【視察期間】 令和6年7月22日～24日

【視察先及び視察テーマ】

・滝川市

『公共施設複合化の取組みについて』

・富良野市

『複合庁舎建設の取組みについて』

・小清水町

『防災拠点型複合庁舎【ワタシノ】建設の取組みについて』

【参加委員】

委員長 東川 孝義

副委員長 高野 美枝子

委員 遠藤 隆男

川村 幸栄

中畠 孝幸

総務文教常任委員会の視察報告を申し上げます。

当委員会では「複合施設のあり方」を調査・研究のテーマとして、7月22日から24日までの3日間、道内の滝川市、富良野市、小清水町の3か所の行政視察を行いました。

【 滝川市 】 「公共施設複合化の取組みについて」

滝川市では「公共施設複合化の取組みについて」、図書館のあり方について議論が進められる中、移転にかかる費用、移転の効果と言った視点で、市役所庁舎内へ移転する公共施設複合化について視察を行いました。

滝川市では平成18年に図書館移転計画検討委員会を発足させ、財政的な課題、利便性、施設の状態、維持管理費、利用者からの視点、市民アンケート等様々な面から検討が行われ、まちなかの庁舎内への移転が決定したとのことでした。

市庁舎2階への図書館移転に当たり、市役所に用務のある市民を3階以上に上げることに對する職員の声もありましたが、市民からの苦情はなかったとのことでした。

滝川市立図書館の特徴は、行政、他の機関、団体等多方面との連携に力を入れている点では、市役所の多くの課と連携した啓発展示を行い、行政と市民をつなぐ役割を果たしていました。保健所、警察署、歯科医師会等の啓発展示、企業や寺院、学校と連携した講演会、読み語り会等を数多く行い、市民の目を多方面に向けさせる機能も発揮していました。

また、図書館での購入雑誌数を維持する取組として「雑誌ささえ隊」という制度を作り、企業・団体・個人からの雑誌の年間購読料の寄附を募り、雑誌の裏には会社・団体のPRを入れホームページに紹介を掲載することで、財政上の支えはもとより商店街・企業との連携を深める取組に成功していました。

滝川市の公共施設複合化の取組は、職員数減少により市庁舎フロアに余裕ができた時期と図書館の老朽化の時期が重なり、市民に親しまれる図書館を作ろうとする熱意が公共施設複合化の成功に導いたことを学ぶことができました。



滝川市では公共施設複合化の説明を受ける

【 富良野市 】 「複合庁舎建設の取組について」

富良野市では「複合庁舎建設の取組について」、老朽化し耐震性が不足している庁舎の建て替えと、隣接する文化会館も同様な状態から、コスト削減も含めた複合庁舎建設に至った経緯について視察を行いました。

富良野市では平成23年の東日本大震災を契機に、庁舎建設の基本方針をまとめた「富良野市庁舎建設基本構想」を策定、市民・議会・行政一体の新庁舎建設検討委員会を設置し、文化会館を含めた基金の設置を行い、具体的な検討を行ったとのことです。

市民理解の取組では市が作成した基本構想をたたき台に、市民検討委員会で協議を重ね、基本計画策定後パブコメと並行し市民説明会を実施し、合意形成を図ったとのことでした。

庁舎機能の集約化では西側にホールを備え、東側は1階に文化会館機能として会議室等の貸館を集約、庁舎機能は2階以上とし、2階は市民窓口フロアを集約、3階は執務室フロア、4階は議会フロアと分かりやすい構成としたとのこと。非常に悩んだところとして、1階に庁舎機能がないことから総合窓口を新設し、ワンストップ機能を導入して、簡単な手続きができる体制として市民への利便性を確保していました。

防災機能強化の取組ではBCP（業務改善計画）にも付随し、自家発電による発電機で72時間給電が可能、上下水道途絶時対策として受水槽、雑用水槽、汚水貯留槽が設備機能として備わっていました。食料・消耗品等の備蓄品は、保管庫の大幅な拡充を盛り込んで建築され、災害時には垂直避難の視点から本部を3階に、4階の議場はユニバーサル



富良野市庁舎に併設されたホールを見学

デザインとして、有事の際多目的に活用することができる設計となっていました。

複合庁舎建設の取組の中で複合化の是非が問題となり、防災拠点の強化という視点が加わったことによる相乗効果が大きかったものと推察されます。

それぞれの自治体が持っている歴史や条件により複合化の可能性は様々であると思いますが、

当市も人口減、財政基盤の確保、防災対策など市民の声はもちろんですが、幅広い専門家の意見も聞きながら、公共施設のあり方を学んだ視察でした。

【 小清水町 】

「防災拠点型複合庁舎「ワタシノ」建設の取組みについて」

小清水町では「防災拠点型複合庁舎【ワタシノ】建設の取組について」、町民が日常を快適に過ごせる交流・健康拠点と、庁舎機能を合わせ持った公共施設としては日本初となる、フェーズフリーの考え方を導入し、災害時の防災拠点としても機能する施設の視察を行いました。

防災拠点型複合施設として建設された目的は、北海道胆振東部地震がきっかけとなり、老朽化と耐震不足が課題となっていた役場庁舎を建て替えることが決定し、基本構想では防災拠点となる役場庁舎と避難所、交流拠点である中央公民館、保健センターの一体化を図り、にぎわいを創出しながらも、いざという時は町民を守る「安心と安全の憩いの場」となるよう様々な企業の協力をいただき、フェーズフリーの概念を踏まえた建設を行ったとのことであります。

町民との合意形成では、町長の公約でもあるコミュニティに関しては飲食ができること、絵画などの展示スペース、気軽に立ち寄れる場所、フィットネス的な集まりができるなど、ワークショップを重ね様々な年代層の意見を取り入れ、反対意見は少なかったとの事です。

防災拠点型複合施設内の具体的な機能ですが、施設内には多目的スペース、カフェ、フィットネスジム&スタジオ、ランドリー機能等を併設し、町民の活動拠点となるにぎわいの空間となっていました。複合施設としては日本初となるフェーズフリーの考え方が導入されており、日常的に利用しているモノやサービスは非常時には防災拠点となる機能が各所に設置され



小清水町庁舎内には、平常時・非常時に利用できる民間のコインランドリーが併設

ていました。

複合施設の運営は町のNPO 法人が担当しており、カフェやフィットネスクラブは地域協力隊をはじめ、新庁舎方針に賛同した企業・組織が持続可能なまちづくりに向けて、ノウハウやアイデア、人材を提供していました。防災拠点型複合庁舎は、日常時・災害時の居場所づくりで、町のにぎわいと持続可能なまちづくりを目指す、官民連携で取り組んだコミュニティ再生・防災拠点の施設として学ぶことができました。

道内3か所の視察を終えて、総務文教常任委員会のテーマであります「複合施設のあり方」を含めて、所管する事項について今回の先進地視察は得ることが多くあり、名寄市の今後の施策について提言を行っていきたいと考えております。

以上、総務文教常任委員会の視察報告といたします。